

屋久島の魚類相調査

本村浩之 (総合研究博物館)

2008年に実施した屋久島の魚類相調査を紹介します。フィリピン北部から台湾を経て琉球列島西側を北上する黒潮は、トカラ列島を西から東に横切り、その海流がバリアーとなってトカラ列島の南北で南日本の魚類相を二分しています。したがって、屋久島は日本本土の魚類相区の最南端に位置し、日本の魚類多様性を研究する上で、屋久島の魚類相の把握は必要不可欠であるといえます。しかし、これまで標本に基づく包括的な屋久島の魚類相の記録はありませんでした。そこで、国立科学博物館が主導する黒潮と日本の魚類相のかかわりの解明を目指す科研費研究のサブプロジェクトとして本格的な屋久島の魚類相調査を行いました。屋久島調査は

総合研究博物館を中心として三重大学、宮崎大学、高知大学、神奈川県立生命の星・地球博物館、広島大学、国立科学博物館の各機関の研究者や学生、総勢25名で行われました。総合研究博物館からは本調査のプロジェクトリーダーとして筆者、他に大学院生と博物館ボランティア（一般と鹿児島大学水産学部1～3年生）が参加し、鹿児島大学屋久町共同研究フィールドステーションを本拠地として採集、標本作製・撮影を行いました。調査は夏秋2回で、第一次調査は8月9日～13日に、第二次調査は10月28日～11月1日に実施し、素潜りや釣り、魚市場での購入などの他に地元漁師の協力を得て浅海性魚類を採集しました。

得られた標本は、総合研究博物館、高知大学、宮崎大学、三重大学、神奈川県立生命の星・地球博物館、国立科学博物館に所蔵され、現在各機関で同定・登録作業が進められています。全種数の集計はまだ終わっていませんが、少なくとも今回の調査でハゼ科の未記載種、フサカサゴ科やイソギンポ科の日本未記録種が発見され、さらに多くの種でその分布域の更新（北限の更新や屋久島初記録）が確認されました。集計が終わり次第、屋久島の魚類相調査の結果を報告する予定です。

総合研究博物館では博物館ボランティアの協力のもと、2006年から鹿児島県の魚類標本を積極的に収集し、登録、保存、管理しています。総合研究博物館の魚類コレクションの重要性は年々高くなっています。標本とそのDNA解析用の筋組織は国内外の研究に活用され（2008年度の魚類標本借用依



1. 開放的な岩礁域での調査



2. 閉鎖的なタイドプールでの調査



3. 漁港内の調査



4. 採集された魚類1



5. 採集された魚類2

標本数は52件、681標本)、さらに膨大な画像資料は研究の他にメディアや一般向けの図鑑でも活用されています。今回の屋久島調査で得られた標本は、現在の屋久島の魚類相を把握するための根拠となる



6. フィールドステーションでの標本処理作業



7. 日本から記録されていないフサカサゴ科の1種
(KAUM-I. 11475)

る標本であるとともに、南日本における魚類相形成の要因をひも解く貴重な基礎的資料であるといえます。さらには、数十年、数百年後の魚類相の遷移を調査するための起点となる資料でもあります。

鹿大遺産－布久思の杜から－

橋本達也（総合研究博物館）

鹿児島大学郡元キャンパスの大部分は、もと明治42年に開校した鹿児島高等農林学校の校地を受け継いでいます。この鹿児島高等農林学校創設から今年、2009年で100周年。学校を引き継いだ鹿児島大学農学部では記念事業も計画されているとのこと。そこで関連する話題として大学キャンパスの歴史を少しご紹介します。

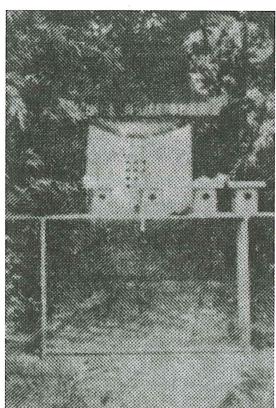
布久思の杜・布久思の宮 玉利池の南側いま少し大きめの木があるあたり、ここは「フクシの森」と高等農林学校以前から呼ばれていたようです。この森には石の祠があり、昭和12～13年頃に「布久思宮」と命名されたとのこと。とくに谷口熊之助 第五代校長はとくにこの宮を大事にし、学校の守護神のような扱いであったといいます。戦中のことですが、学校の式典・行事の日には全校あげて挾礼したそうです。祠はいまはなく石組みの台座のみが、木々の間に残っています。

なお、「布久思」の字は万葉集の雄略天皇の歌から採ったもので、布久思は「掘串」という根菜を掘る道具の一種で、高等農林に相応しいとして採用されたものだそうです。

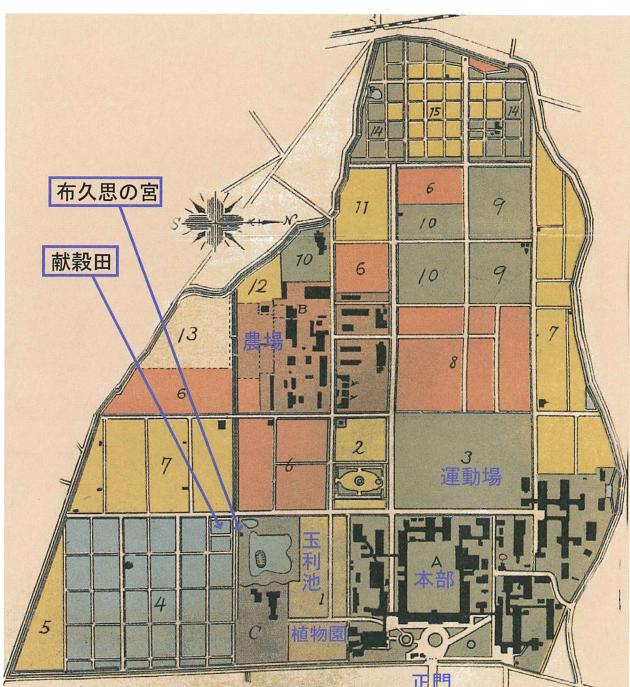
田の神 高等農林学校の創立以前、このキャンパス付近は荒田という田園地帯だったのですが、ここに田んぼでも鹿児島県内のあちこちでみられるように、田の神像がいくつかあったそうです。

田の神信仰は南九州の農村でみられ、よくタノカンサアと呼ばれる石像を作って祀っています。江戸時代の後半期、18世紀後半につくられたものが多いようです。

田の神1 学校創設時、校内にあった田の神は布久思の杜に集められたそうです。その一つが田の神1です。江戸後期～明治時代のものと思われます。



布久思の宮



鹿児島高等農林学校 昭和11～12年